

第3章 大正デモクラシー時代の高松

郡市別	本年作付 予定面積	植付未了反別	同上		植付田ノ旱害状況		
			植付シ得ル 反別	降雨ナキ場合 植付不能反別	現在 澗渴	十日後 澗渴	二十五日後 澗渴
大川郡	四、六七二・七町	一五六・八町		一五六・八町	三〇八・四町	一、一六六・八町	一、七五二・〇町
木田郡	五、九二七・四	一二五・二		一二五・二	一、七六〇・五	四、〇六五・〇	七八九・二
小豆郡	六一二・七	三九・〇		三九・〇	一二〇・四	二七八・二	四五五・五

水稲旱害状況調 (昭和十四年八月五日調)

一 昭和十四年干ばつ被害状況

昭和十四年八月

本県ニ於テハ昨秋以来降雨極メテ少カリシ為未曾有ノ大旱魃ニ遭遇シ、農作物ノ被害総額ハ既ニ千式百万円ノ巨額ニ達シ今後益々激増セントスル趨勢ニアリ、殊ニ本県ノ農家一戸当リ耕地面積ハ全国中最モ狭少ナルヲ以テ農家ノ惨状見ルニ忍ビザルモノアリ

〔香川県通常県会議事速記録〕香川県議会議事録所蔵
 八田嘉明殿
 桜内幸雄殿
 香川県会議長 今井浩三

陳情書

一〇 昭和十四年干ばつにつき陳情書

昭和十四年八月

其ノ万全ヲ期セントス、然ルニ現在ノ地方財政ニテハ其ノ遂行甚ダ至難ナルヲ以テ、何卒実情御賢察ノ上罹災民救済ノ為各種施設ニ対シ格別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ切望ス

昭和十四年八月十七日

給水できるが、配水管敷設がいまのところ浄水場―国道十一号線下の既設配水管接続三千五百メートルだけなので、当分は日量三〜四千トンを屋島、高松町約三千戸に給水する予定。これで浅野浄水場から同地区に送られていた日量約六千トンの水が市内の中、西部に回せるため、夏の水道事情は大幅に緩和される。

〔四国新聞「昭和四二・六・九 高松市立図書館所蔵」〕

四 昭和四十八年の『高松砂漠』 昭和四十八年七月

1 きょうから第一次給水制限

高松の上水道 洗車せんなど封印

カラカラ天気のため上水道事情の悪化している高松市は十三日から第一次給水制限にはいり、市水道局職員の手で散水せん、洗車せんを閉じる作業が始まった。『空梅雨』で降雨がほとんどなく内場ダムなど四つの貯水池の水量が極端に減少、ここ当分の間に適量の雨がなければ絶対のピンチに追い込まれるため、第一次の給水制限となった。第一次制限ではガソリンスタンドの洗車せん

や家庭、道路などにある散水せんが閉じられるが、こうした散水せん、洗車せんは市内に約二千個ほどあるものとみられる。(後略)

〔四国新聞「昭和四八・七・二三」〕

2 高松市が第二次給水制限

きょうから昼間断水

対策本部を設置 給水車の出勤も

上水道事情がピンチに追い込まれた高松市は二十一日から『昼間断水』の第二次給水制限に入る。第二次制限はとりあえず月末まで実施するが、この間、配水管の管末地域では終日断水に見舞われる恐れがあるため、これらの地域では給水車による緊急給水作戦を展開する。同市では第二次制限突入に先立って二十日午後二時「市緊急給水対策本部」(本部長・脇市長)を設置した。

(中略)

第二次制限では、給水時間は午後五時から翌朝九時までの一六時間に限られるため、昼間は全市で断水とな

り、市民生活に影響が出てくる。特に国道一―号線から北側の商店街や玉藻公園周辺の管末地域では夜間にも水が出ない恐れがある。

(後略)

〔四国新聞「昭和四八・七・二二」〕

3 あすから第三次給水制限

今朝三時間給水に四貯水池30%を割る

高松市は、二十一日から午前九時―午後五時の昼間八時間が断水する第二次給水制限を行い、二十六日からはこの第二次制限をさらに強化、午前七時―午後五時の昼間十時間断水体制に入っている。

しかし連日の日照り続きで内場池など四貯水池の総貯水量は二十九日現在、四百十四万トと満水時の三〇%を割ってしまった。

市緊急給水対策本部(本部長・脇市長)では民間企業の深井戸の借り上げ、一般家庭の善意の井戸の開放を働きかけるなど水源確保にあらゆる努力を続けているが、

八月一日から七日までの七日間、予定通り第三次給水制限を実施しなければならぬところまで追い込まれた。第三次制限に入ると、給水時間は午前五時―同八時までの早朝三時間に短縮される。この措置を取ると、市水道局は総配水量を現在の日量五万トから四万トに、節約出来るが、給水車による給水対象地域は今の十九ブロック、二万五千戸から大幅に増えるものと予想され、市民生活はますます苦しくなる。同市で第三次給水制限が行われるのは四十二年夏以来のこと。

〔四国新聞「昭和四八・七・三一 高松市立図書館所蔵」〕

五 満濃池から緊急送水

満濃池、府中ダムから送水

11日にも2万ト

香川用水路を活用

昭和四十八年八月

高松市の水源確保は、市や市議会同好会の渇水対策本部、高松市選出の自民党県議らの要請に基づき、県が関

係市町間のあっせんを行った結果、満濃池土地改良区の協力で満濃池水系から日量一万四千ト、府中ダムから送水している坂出市内の工業用水を一〇%削減した日量六千トを高松市へ救援送水することになった。満濃池水系の一万四千トは、同池周辺で現在使用していない休止井戸十四カ所の復活運転と、同池の水（六日現在貯水量約四百三十万ト、貯水率約二八%）を節水して確保する。

また、坂出市内の工業用水給水量（最大契約量五万九千ト）を六〇%から五〇%に削減し、カット分約六千トを確保、それぞれ高松市へ送るといふもの。府中ダムの貯水量（満水時八百万ト）は北条池などを含めて現在約二百万ト。

これらの送水には主として香川用水事業水路の完成区間を使う。満濃池水系分は、満濃町四条の丸亀幹線分水口で取水、香川用水東部幹線水路を経て綾南町で綾川の支流に当たる富川に放流、府中ダムに流し込む。この区間約三十キ。さらに府中ダム―御殿浄水場間十キは同ダムの送水ポンプ（能力日量一万ト）二基をフル運転、県

営送水管と高松市水道管を通じて鶴市町・御殿浄水場（能力日量二万三千ト）に送り込む。このため、東部幹線水路の使用区間にある分水口三十カ所の穴をふさぎ、水路の土砂を取り除く工事を九日までに終わらせて通水する。また府中ダムの送水ポンプや送水管の調整を急ぎ、府中ダム―御殿浄水場間の送水は十一日から始める予定。

二万トの救援受水で楠上系統の深井戸揚水一万三千トなどを合わせて日量約四万トの水が確保できることになり、終日断水という最悪状態だけは一応避けられそう。なお、満濃池水系と府中ダムからの送水は高松市の水源事情が好転するまで続けられる。

〔四国新聞〕昭和四八・八・七 高松市立図書館所蔵